

2024年5月実績概要（メモ）

（2024. 6. 17）

定修の集中に伴うエチレンの減産が続く中、誘導品類の生産も増減に偏りが生じる。

1. 生産動向

イ) エチレン 395,900トン

前月比 + 0.3% (+1,300トン)

前年同月比 ▲ 2.4% (▲9,800トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	+ 3.3%	—
定修要因等	+ 0.8%	▲ 0.5%
能力増減	—	—
稼働率変動	▲ 3.8%	▲ 1.9%
生産増減率	+ 0.3%	▲ 2.4%

稼働プラントの実質稼働率試算：前月 82.7%* → 当月 80.2% ← 前年同月 81.4%

定修プラント：前月 2社2プラント → 当月 3社3プラント ← 前年同月 1社1プラント

ロ) 主な石油化学製品

前月比は、日数の増加に対して、定修規模差等から HDPE、PP、塩ビ樹脂、塩ビモノマー、EO、AN、ベンゼンなどの11品目がマイナス。LDPE、SM、SBR、トルエンなどの6品目はプラスとなった。

前年比は、定修規模差や稼働率要因から、PS、SM、塩ビ樹脂、EO、EG、AN、ベンゼン、キシレンなどの11品目がマイナス。LDPE、HDPE、MMA モノマーなどの6品目はプラスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況（LDPE、HDPE、PP、PS）

イ) 生産

前月比は、日数の増加とともに定修規模が縮小した LDPE はプラス。HDPE、PP、PS は定修規模差等からマイナスとなった。

前年比は、定修規模差や稼働率要因等から LDPE、HDPE はプラス。PP、PS はマイナスとなった。

ロ) 国内出荷

消費マインドは、全体ではやや足踏みの動きが見られている。国内の生産活動は、4月に若干の低下が見られたが、5月以降は、輸送機械、生産機械などの増加予測がだされているほか、生産のマインドも5月は強気の姿勢が優勢となっている。

汎用樹脂の出荷は、前月比は、連休に伴うユーザー側の営業日数の減少などの影響もあり、LDPE、HDPE、PP、PS ともにマイナスとなった。一方、前年比は、前年の出荷がやや振るわなかった面もあるが、LDPE、HDPE、PP、PS ともに前年を若干上回る出荷となった。

分野別の出荷動向では、フィルム等の包材分野の出荷は、当月は、LDPE、PP、PS で前年比プラスとなった。包材以外の分野では、LDPE は供給量の回復もあり、ラミネート分野、電線被覆分野がプラスとなったほか、HDPE は、射出成形分野、中空成形分野、パイプ分野のいずれもプラスとなった。PP は、射出成形分野が5カ月ぶりにプラスに転じた。

PS は電機・工業分野、雑貨産業用はマイナスだが、FS 用はプラスとなった。

ハ) 輸出

原油、ナフサ市況の下落に伴い、樹脂製品市況は一進一退となっている。前月比は、LDPE、HDPE、PS はプラス。PP のみはマイナスとなった。前年比では、LDPE、PP、PS はプラス。HDPE はマイナスとなった。

ニ) 在庫

在庫量は、前月に対して、LDPE のみは増加し、HDPE、PP、PS は減少した。在庫率(季節調整済)は、LDPE、HDPE、PP、PS ともに低下したが、在庫水準としては LDPE、HDPE、PP はやや高め、PS は適正に向かいつつある。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率 (単位:ヶ月)	
		4月末	5月末
LDPE	+ 8,900	3.7	3.3
HDPE	▲ 3,300	3.5	3.4
P P	▲ 6,200	3.3	3.2
P S	▲ 1,400	2.0	1.8

前月からの修正を*で付記

以上